



# 千曲・坂城地域における 地域生活支援拠点等整備

千曲・坂城障がい者(児)基幹相談支援センター  
相談支援員

坂下 亜希子



千曲・坂城地域  
人口：約74,000人  
千曲市59,470人  
坂城町14,460人  
(平成30年9月1日現在)

手帳所持者数：約4,800人

(身体障害者)  
千曲市2,662人  
坂城町741人  
(知的障害者)  
千曲市565人  
坂城町142人  
(精神障がい者)  
千曲市564人  
坂城町122人

(平成28年度末)

## 千曲・坂城地域の特徴

- 千曲市→戸倉・上山田温泉 温泉街  
あんずの名産地 観光資源が多い
- 坂城町→ものづくりのまち 中小企業が多い

○長野市と上田市という大きな地域の間にある小さな地域

○小さな地域だが...

- ・稲荷山養護学校
- ・稲荷山医療福祉センター
- ・児童養護施設 恵愛
- ・篠ノ井橋病院

と大きな資源があります。

# 千曲・坂城地域の福祉サービス

- ・施設入所支援:3か所
- ・療養介護:1か所
- ・共同生活援助:10か所
- ・短期入所:6か所
- ・生活介護事業所:7か所
- ・自立訓練(生活訓練)1か所
- ・居宅介護 8か所
- ・就労系:10か所
- ・相談事業所:14か所  
うち一般相談事業所:3カ所

- ・児童発達支援事業:3か所
- ・放課後等デイサービス:7か所
- ・医療型児童発達支援センター:  
1か所
- 医療型障害児入所施設:1か所

- ・その他の連携機関  
長野圏域障害者就業・生活支援センター  
長野圏域発達障害サポートマネージャー・療育コーディネーター  
長野市地域移行コーディネーター

# 平成29年度10月より 千曲・坂城障がい者(児)基幹相談支援センター 開設

所長： 精神保健福祉士

相談員： 保健師 1名  
          精神保健福祉士 1名  
          社会福祉士 1名  
          相談支援専門員 1名

事務員：1名



☆複数の法人で構成→ 一法人への負担軽減  
それぞれの法人の特徴を生かし協力体制を作っている

## <地域生活支援拠点等整備について話し合いの経過>

○H29年度 市町村から地域生活支援拠点等整備の構想を提案

○自立支援協議会 運営委員会の中で話し合いを持つ

○さらに関係者間の認識を深め地域の体制づくりを進めていくため→ワーキングを開催

第1回 H30.8.31

第2回 H30.10.23

今後も継続的に話し合いの場を持ち検証をしていく  
整備をした後でも必要に応じてワーキングを開催していく

## ○勉強会の開催

H29.12.13

北信圏域 野口 直樹氏を招き基幹＋有志の勉強会を開催

H30.9.1

千曲・坂城地域自立支援協議会 全体会

又村 あおい氏

「みんなで考えよう障がいのある人の住まいと暮らし  
～地域生活支援拠点をキーワードに～」

## ○緊急対応が必要なケースの事前調査

☆H29年度相談支援専門員＋基幹相談支援センター  
ニーズ調査アンケートを実施

相談支援専門員 44件

基幹相談支援専門員 16件                      合計60件

### <障害種別>

知的障害・・・20名

精神障害・・・31名

身体障害・・・18名

発達障害・・・5名

不明・・・1名

※15名重複あり



# ☆ 緊急時の受け入れ・対応 ☆

これまでの緊急対応事例について検証(H28~

※ショートステイ利用につながったケース

○精神1級 女性（20代）区分あり 相談支援専門員より相談が入る

解離・多重人格があり、自宅にいることが不穏になる原因  
普段利用しているショートステイ先がお盆で職員が手薄になるため利用が難しい。

家にいられない。自宅へ送っていかうとすると車から飛び降りる。

○療育B2 男性（20代）区分なし 相談支援専門員はついていなかったが、基幹とは顔なじみ

兄弟からの暴力があり顔にあざを作って来所。野宿をしても自宅には帰らないと言い張る。

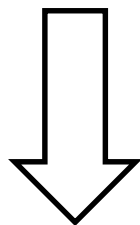
○精神2級 女性(50代) 区分あり 引っ越し前の市町村での区分が残っていたがプランなし  
気分障害。同居の男性のもとに帰れない。所持金3000円。

(市町村対応)

○精神2級 (40代) 男性 区分あり 居宅介護サービス利用  
自宅がぼやになり、緊急で住む場が必要になった。

○重症心身障害 (40代) 女性 区分あり  
介護者の体調不良により自宅で過ごすことが難しくなる

⇒ ショートステイ以外の地域内の資源を活用して対応をした経過もあり。



○過去の緊急対応の事例を検討した結果、

空床確保をせずに対応が可能では？

# ○千曲・坂城における地域生活支援拠点 等整備の方向性

話し合いの途中ですが・・・

こんな感じでまとまってきています。

☆資料参照☆

# <地域で担う役割の確認>

～資料 千曲・坂城における面的整備イメージ図 参照～

## ①相談機能

中核：基幹相談支援センター  
市町村

相談支援事業所  
その他相談機関

## ②緊急時の受け入れ

## ③体験の機会・場の確保

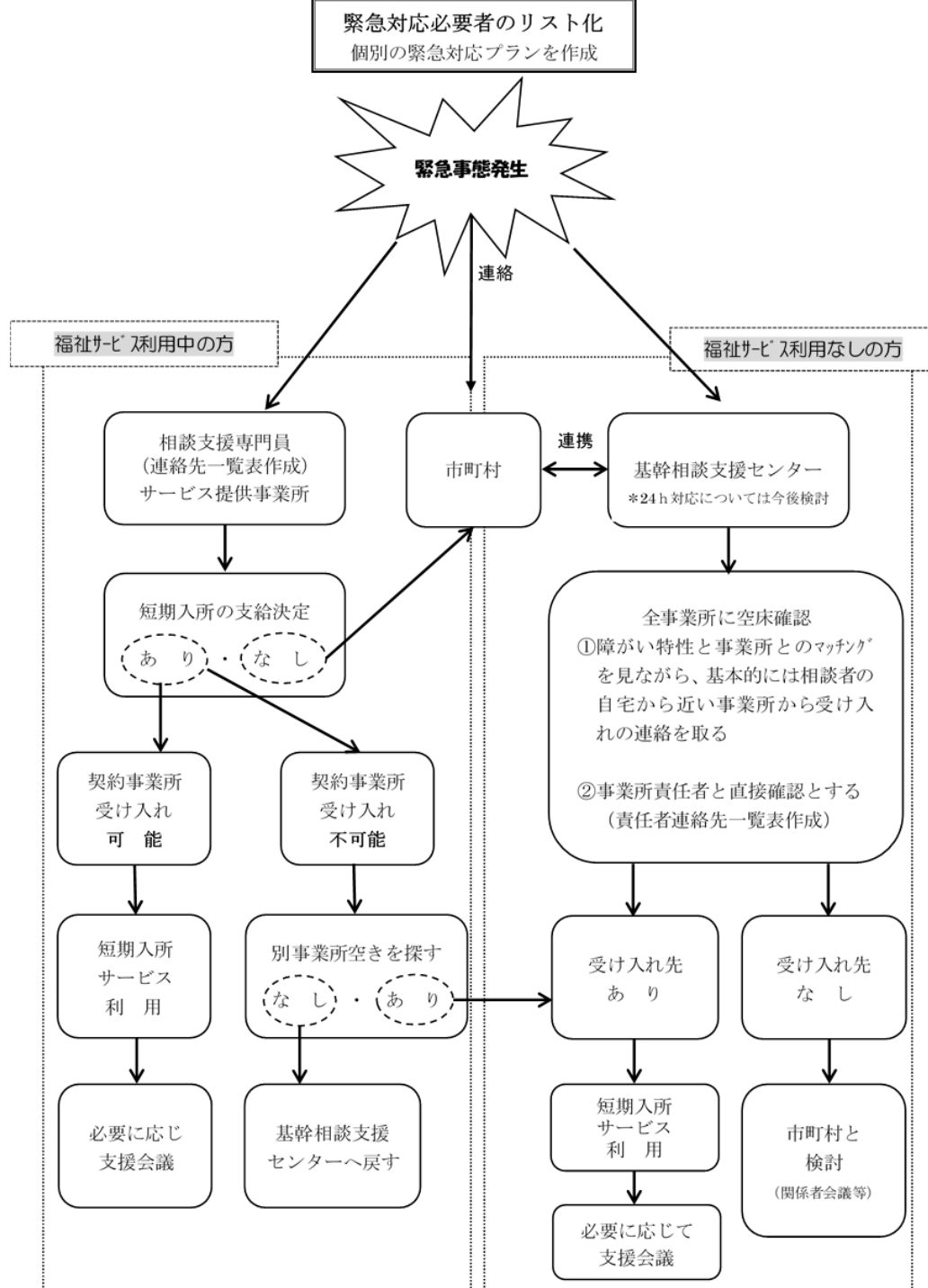
障害福祉サービス事業所等

※「初めてのの方の緊急対応は難しい」 → はじめましてをなくすために  
プランにのせ体験の機会へつなげる  
自宅以外で過ごすことが出来ることは強みに。  
→ 日中活動・宿泊の体験利用

④専門的人材の確保・養成  
基幹相談支援センター  
市町村  
地域自立支援協議会

⑤地域の体制づくり  
基幹相談支援センター  
市町村  
地域自立支援協議会

④⑤においては、地域生活支援拠点等整備がされた  
あとも  
引き続き地域自立支援協議会を活用しながら検討



○今後は・・・

緊急時をつくらない方策・仕組みづくりを主体的に  
考えていく

- ・緊急時を想定してのプラン作り  
相談支援専門員＋基幹  
緊急事態を想定する力  
→相談支援専門員の質の向上  
体験の機会の利用・促進
- ・緊急時への備えとしての台帳整備  
基幹がとりまとめ
- ・緊急時の連絡ルート確認  
対象の事業所へ提出依頼  
相談支援専門員とも今後協議



## <課題>

- ・地域生活支援拠点等整備を進めていく中で

24時間365日の相談支援体制とするかは今後の検討課題

- ・相談支援専門員の担う役割が大きい。

指定一般を多くの事業所がとってほしいところだが、

現実問題、計画相談でいっぱいいっぱい。

相談事業所をやめてしまう事業所があるなか、相談員が

疲弊。どのように、人材を確保できるのかが課題

・ 療育手帳A1 20代 女性のケース

母はシングルマザー 高校卒業後生活介護事業所へ通所  
通所先とのトラブルがあり通所をやめてしまう。

その後の日中の受け入れ先見つからず、自宅で母親が面倒を  
見ていた。

緊急事態を想定し、ショートステイのプランあり

受け入れ先の事業所も利用経験あり

☆母、体調不良のため自宅での生活が難しくなる

緊急時の対応はうまくいき契約事業所で受け入れが可能

しかし・・・

1か月以上たっても母の体調は改善せず  
ショートステイの事業所もこれ以上の受け入れが難  
しい。  
居宅介護では必要な支援がまかなえない(支援が必  
要な時間を限定できない)  
入所の空きはなく  
遠方のショートステイを日によって使いまわっている



- 緊急をなくすための支援 十
- 緊急の後の支援

結局のところ地域全体の支援力をあげないと全体はうまくいかな  
なってしまう。  
地域の体制づくりの強化が課題。

## <最後に>

- 小さい地域ですべてをまかなうことは難しい。  
一つの事業所だけでまかなうことも難しい。  
であるなら、みんなでやるという意識を  
地域の全事業所が持つ。

使える資源はみんな使う。

そんな気持ちで向き合えたら・・・

それでも・・・

他の地域の皆様にお世話になることも多々あります  
今後ともよろしく願いいたします

